

日光浴中のニホンイシガメの孵化幼体

加賀山翔一

274-8510 千葉県船橋市三山2-2-1 東邦大学大学院理学研究科

Field observations of basking hatchling Japanese pond turtles

By Shawichi KAGAYAMA

Department of Biology, Graduate School of Science, Toho University, Miyama 2-2-1,
Funabashi, Chiba 274-8510, Japan

淡水性カメ類の多くは体温調節や皮膚及び甲羅の殺菌のために、頻繁に陸地で日光浴を行うことが知られている。日本固有種であるニホンイシガメ(*Mauremys japonica*)は、水辺脇の陸地、流木や石の上などで日光浴を行うことが知られているが(松久保, 2005; 矢部, 2007; 小賀野, 2017), 成長した幼体や成体での報告例が多く、孵化幼体の日光浴場所に関する報告は、水田脇の陸地で日光浴していた事例を報告した小賀野(2017)に限られる。本稿では、千葉県房総半島に位置する2河川(保全上の観点から河川Aと河川Bと表記した)において、日光浴を行っているニホンイシガメ孵化幼体を2個体発見したため、数少ない事例をここに報告する。

事例1

2019年4月14日, 13時07分に, 山間部に位地する河川上流域(河川A)の細流において, ニホンイシガメの孵化幼体(2018年の夏生まれの0歳)が, 植物に覆われた川岸(細流から約15cm)にある石の上で日光浴を行っているのを発見した(図1)。天候は晴れであった。筆者が孵化幼体を確認したときには, 既に甲羅は乾燥しており, 白く目立たない色になっていた(図1A)。5分ほど観察した後, もう少し近くで写真を撮ろうと近づいたところ, 目を覚まし(図1B), 川の中に逃げようとしたため捕獲した(性別:不明, 背甲長:39.50mm, 腹甲長:32.58 mm, 体高:16.34 mm, 体重:測定不可)。なお, 孵化幼体の発見時における気温や水温に関する環境要因の測定は行っていない。

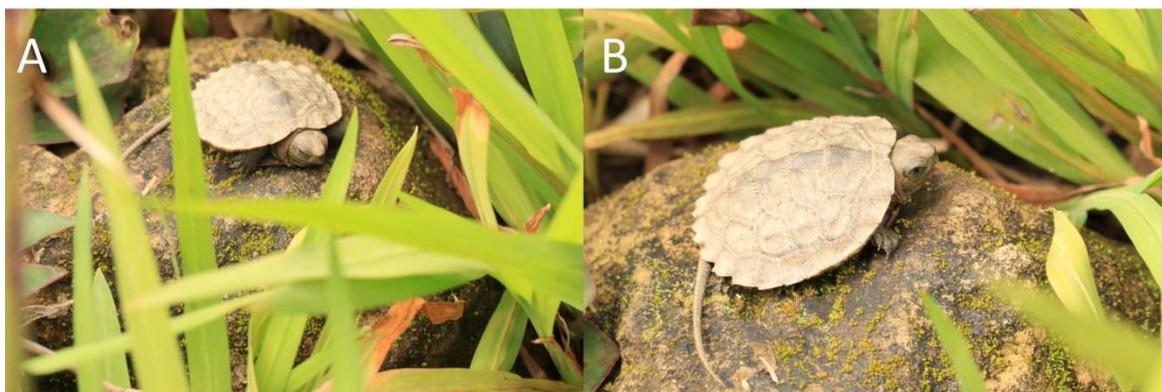


図1. 石の上で日光浴するニホンイシガメの孵化幼体(事例1)

A) 石の上で寝ているように日光浴する個体, B) 筆者の気配に気づき目覚めた同一個体

事例2

2017年9月3日, 13時19分に, 山間部に位地する河川上流域(河川B)の河川内にある石の上で日光浴を行っているニホンイシガメの孵化幼体を発見した。天候は晴れであった。発見した孵化幼体の身体全体

が濡れていたため(図2A), 石に上がって間もない個体であると考えられた。5分ほど孵化幼体を観察したものの全く動くことはなく同じ姿勢のままであった(図2B)。その後, 孵化幼体を捕獲し, 身体測定を行った(性別:不明, 背甲長:30.90mm, 腹甲長:25.06mm, 体高:13.62mm, 体重:6g)。捕獲した孵化幼体の腹甲にはヨークサック(卵嚢)の跡が薄く付いていたため, 孵化後間もない個体と考えられた。なお, 気温や水温に関する環境要因の測定は行っていない。

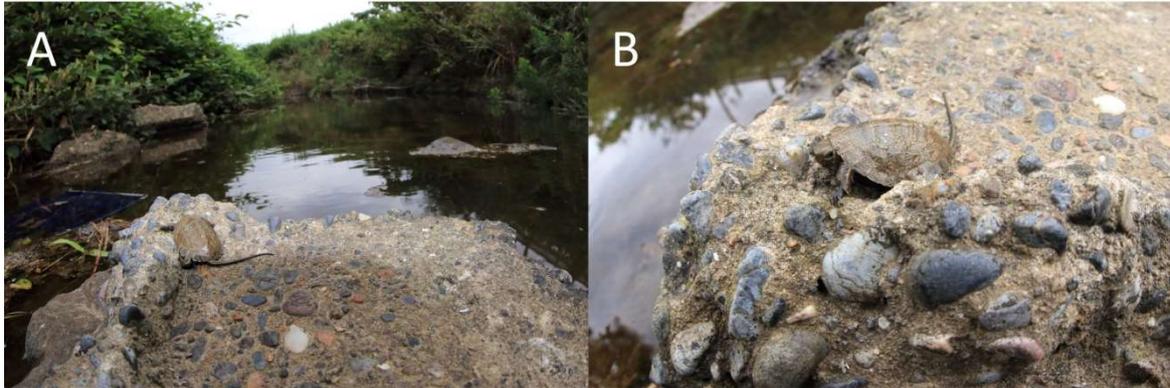


図2. 石の上で日光浴するニホンイシガメの孵化幼体(事例2)

A) 石の上で日光浴する個体, B) 起きていた同一個体

引用文献

松久保晃作. 2005. イシガメの里. 株式会社小峰書店, 東京. 44 p.

小賀野大一. 2017. 無防備な春のニホンイシガメ. 亀楽 13:12-13.

矢部隆. 2007. ニホンイシガメ. 内山りゅう(編) 今, 絶滅の恐れがある水辺の生き物たち. 山と溪谷社, 東京. 107-126.